

第18回 ロゴスの文化教室

誰もが当たり前用いる言葉。でも、だからこそ難しい……。何かを表現しようとするとき、表現されたものを読み解こうとするとき、そんなもどかしさを感じたことのある人は多いのではないのでしょうか。

18回目を数える今回のロゴスの文化教室は、批評家・随筆家の若松英輔さんをお迎えし、言葉について考えます。難しい、だからこそ奥深くて面白い。そんな「言葉/コトバ」の魅力を、やさしく解き明かしていただきます。



テーマ

読むことと書くこと
言葉の奥にあるもう一つの「コトバ」

講師 若松 英輔 氏

日時

2019年6月8日(土) 14:00~16:00

会場

ケルンホール(東京カテドラル 関口会館地下)

〒112-0014 東京都文京区関口3-16-15

- ・東京メトロ有楽町線「江戸川橋駅」下車・1a出口 徒歩15分
- ・新宿駅または目白駅発着
都営バス(白61)「ホテル椿山荘東京前」下車・徒歩1分

参加費

1,000円(資料代込・当日受付)

申込締切

5月22日(水)

申込方法

お電話で氏名・電話番号・資料の種類(普通字・点字・テープ・デイジー)をお知らせください

※定員(100名)になり次第、受付を終了いたします

申込先

社会福祉法人ぶどうの木 ログソ点字図書館

住所

〒135-8585 東京都江東区潮見2-10-10

TEL

03-5632-4428

FAX

03-5632-4454



ひとは、言葉を読むとき、文字に記されたことを読むだけでなく、文字の奥に秘められた意味を感じとります。また、書くときも、おもいを文字に託すだけでなく、文字の奥に言葉にならないおもいを乗せて相手に届けようとしています。考えてみれば不思議なことですが、私たちは言葉によって、言葉以上の何かをつねに感じているのです。しかし、私たちは、文字を読めるようになり、いつしか、文字にならないおもいを少し、感じにくくなっていくかもしれません。

哲学者の井筒俊彦は、言語という姿を超えた意味のあらわれをカタカナで「コトバ」と記し、特別な意味を与えました。書くとは、言葉という器にコトバを乗せて送り出すことであり、読むとは、言葉を扉にして「コトバ」を感じとろうとすることだということです。

今回の講演では、いくつかの詩を味わいながら、言葉と「コトバ」の関係を皆さんと考えてみたいと思っております。（若松英輔）

若松英輔（わかまつ・えいすけ）

批評家・随筆家。1968年生まれ、慶應義塾大学文学部仏文科卒業。2007年「越知保夫とその時代 求道の文学」にて三田文学新人賞を受賞。2016年『叡知の詩学 小林秀雄と井筒俊彦』にて西脇順三郎学術賞を受賞。2018年『詩集 見えない涙』にて詩歌文学館賞を受賞。『小林秀雄 美しい花』（文藝春秋）にて角川財団学芸賞を受賞。著書に『井筒俊彦 叡知の哲学』（慶應義塾大学出版会）、『イエス伝』（中央公論新社）、『魂にふれる 大震災と、生きている死者』（トランスビュー）、『生きる哲学』（文春新書）、『霊性の哲学』（角川選書）、『悲しみの秘義』（ナナロク社）、『内村鑑三 悲しみの使徒』（岩波新書）『言葉の贈り物』『詩集 幸福論』（亜紀書房）など多数。

* - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - *

ロゴス点字図書館

社会福祉法人ぶどうの木・ロゴス点字図書館は“考える図書館”をテーマに、宗教書や哲学書を中心にした蔵書を揃えています。全国の視覚障害者を対象に、点字図書や録音図書の製作・貸し出し、点字出版、視覚障害者の生活相談など各種の事業を行っております。視覚に障害のあるかたならどなたでもご利用にできます。

社会福祉法人ぶどうの木 ロゴス点字図書館
〒135-8585
東京都江東区潮見2-10-10 日本カトリック会館内
TEL 03-5632-4428 FAX 03-5632-4454
URL <http://www.logos-lib.or.jp>

～あたたかいご支援をお待ちしています～

郵便振替口座 00140-9-18271

加入者名「社会福祉法人 ぶどうの木」

その他、使用済み切手、未使用切手、書き損じハガキ等を集めています。詳しくは当館へお問い合わせください。